

百武兼行 洋画家、外交官。日本人として、フランスで初めて洋画を学び、日本で最初に裸婦像を描いたが、早世。

ひゃくたけかねゆき
天保改革弾圧1842 =

肥前国佐賀城下片田江で、佐賀藩士京都留守居百武兼貞の次男に生まれる。幼名を安太郎。龍造寺氏に仕えた戦国武将の百武賢兼の直系の子孫にあたり、父は有田皿山代官を務めた際、有田にゴットフリード・ワグネルを招くなどして磁器製法の改良にも尽力した。

阿部正弘首座1845 = 3歳 :

北斎没・・・1849 = 7歳 : 幕末の四賢侯の一人として名高い肥前国佐賀藩10代藩主鍋島直正から、子で4つ下の直大のお相手役に選ばれ、直大からも兄のように慕われる。

尊徳報徳論・1851 = 9歳 :

ペリー来航・1853 = 11歳 :

桜田門外変・1860 = 18歳 :

明治維新・・・1868 = 26歳 :

戊辰戦争終・1869 = 27歳 :

廃藩置県・・・1871 = 29歳 : 直大とともに、岩倉使節団に随員して渡欧。アメリカを経てロンドンに赴き、日本人で最初にオックスフォード大学へ留学、直大は文学研究、自らは経済学を学ぶが、

明治6年政変 1873 = 31歳 :

佐賀の乱・・・1874 = 32歳 : 佐賀の乱の発生で、帰国。再び渡英し、ロンドンで風景画の、パリに渡って、人物画の技法に触れる。

初の民間工場1875 = 33歳 : 直大夫人胤子の油絵稽古のお相手役として、英国画家リチャードソンから初めて洋画を学び、

三つの内乱・1876 = 34歳 : *ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツの展覧会に作品が入選。

大久保暗殺・1878 = 36歳 : 直大夫妻が帰国した後、鍋島の命でパリに留まり、*本格的に洋画技術を習得するために、美術学校教授でアカデミー派の大家のレオン・ボナに師事。代表的なものに「母と子」「バーナード城」がある。

沖縄編入・1879 = 37歳 : 「ブルガリアの女」「マンドリンを持つ少女」「少女習作」。_パリから帰国、

・・・1880 = 38歳 : 駐伊公使となった鍋島直大に随員し、_外務書記官としてローマに赴く。その際、工部大学校で洋画を指導する外国人教師アントニオ・フォンタネージの生徒松岡寿に渡欧の機会を与え、ローマ赴任後は、同学校の教師としてサン・ジョバンニを推挙。自らは、_公務のかたわら街中にアトリエを借り、初めレオン・ボナの友人のチューロンから、続いて、チューロンの紹介を得て王立ローマ美術学校名誉教授チャーゼ・マッカリの指導を受け、

明治14年政変1881 = 39歳 : *「臥裸婦」「臥裸立像」は、日本人が油絵で描いた最初の裸婦といわれる。

新体詩抄・・・1882 = 40歳 : 「ピエトロ=ミッカ図」。*帰国して農商務省に出仕するが、まもなく病を得て佐賀へ戻り、

秩父事件・・・1884 = 42歳 : 没した。

残された作品も数が少なく約40点ほどといわれている。